

大崎市

下伊場野の編笠



大崎市松山下伊場野の志引地区や中谷地地区では、イグサを材料にした編笠が、昭和40年頃まで盛んに作られ、自家用のほか、周辺地域でも広く農作業に使われたようです。女性たちの副業として作られたようで、「近所の女性たちがおしゃべりしながら仕事をした」という話をいまでも聞くことができます。慣れてくると一人で一日一個は作れるようになったようです。

視界が広く、風通しも良いので、とても重宝され、昭和3年に仙台で開催された東北産業博覧会にも出品されるほどの名産品でした。しかし、昭和40年頃に大量生産品としての麦わら帽子が安く手に入るようになると、下伊場野の編笠は徐々に使われなくなりました。

カウボーイハットのような独特のフォルムの編笠をいまでは見ることもなくなりましたが、下伊場野地区で歌い継がれている「伊場野音頭」には、「志引、中谷地 編笠づくり 粹な紅ひも よこちょに結び あの子かわいや あの子かわいや かたえくぼ」と下伊場野の編笠が歌詞に織り込まれています。